

研究・調査報告書

| | |
|---|----------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 334 | 滋賀医科大学福祉保健医学講座 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Adolescent heavy episodic drinking trajectories and health in young adulthood. 思春期における散発的な多量飲酒行動の経過と青年期の健康状態との関連 | |
| 執筆者 | |
| Oesterle S, Hill KG, Hawkins JD, Guo J, Catalano RF, Abbott RD | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| J Stud Alcohol. 2004 Mar;65(2):204-12. | |
| キーワード | |
| 飲酒行動、機会飲酒、思春期、健康状態、追跡調査 | |
| 要 旨 | |
| <p>目的： 本研究は、思春期（13-18歳）での散発的な多量飲酒行動（1度に少なくとも5単位以上のアルコール摂取）の経過と24歳時点での健康状態および健康行動との関連を検討することを目的とし行われた。</p> <p>方法： 10-24歳でインタビューを受けた808名の青年の追跡調査の結果が、セミパラメトリック・モデルとロジスティック回帰分析を用いて検討された。</p> <p>結果： 散発的な多量飲酒の経過は以下の4つのパターンに分類された。1.多量飲酒なし、2.遅い時期（16歳以降）に多量飲酒開始、3.次第に多量飲酒化したもの、4.思春期の間を通じて多量飲酒であったもの。思春期に散発的な多量飲酒行動をとらなかったものは24歳時での健康問題の出現頻度が最も低く、健康保持に努めていた。慢性的な多量飲酒者と遅発型の多量飲酒者は、24歳時の健康状態や健康行動に負の影響を与えていた。思春期に慢性的な多量飲酒であったものは多量飲酒しなかったものと比べて、体重型や肥満を呈しやすく、血圧が高かった。遅発型の多量飲酒者は思春期に多量飲酒の習慣がなかったものと比べて24歳時に安全運転をしない傾向にあり、不健康でありがちであった。このような健康上の格差は、24歳時点での散発的な多量飲酒の頻度や思春期における他の薬物使用、人種、性、家庭の貧困を補正後も有意な独立因子として残った。</p> <p>結論： 思春期における散発的な多量飲酒は、長期にわたり健康に対して負の影響を与えることが明らかになった。思春期の飲酒行動のそれぞれのパターンにより、青年期の健康状態や健康行動が異なることが示された。</p> | |